

森林防護柵を活用したシカ誘導捕獲技術の開発 ～防護柵沿いにおけるシカの行動について～

林業試験場 経営環境部 大谷栄徳

〔はじめに〕

ニホンジカ（以下シカ）による林業被害のうち、特に植栽木の食害が林業経営に深刻な影響を与えている。被害対策として、植栽地では防護柵を設置しているが、防護柵の破損箇所等からシカに侵入されるなど十分な効果は得られていない。そこで植栽地に集まるシカの習性と防護柵沿いを歩くとされるシカ行動を利用した、初心者でも実施できるくくりワナによるシカ捕獲技術を開発するため、防護柵に対するシカの行動や出現頻度等について調査した。

〔調査方法〕

(1) 防護柵沿いにおけるニホンジカの出現頻度

2015年冬季から2017年冬季の間に、西牟婁地域の植栽地に設置された防護柵沿いにおいて、くくりワナが設置可能でシカと思われる痕跡（食痕、糞など）が確認できた地点（5林分1～3箇所）にセンサーカメラを35日間設置し、調査期間内にシカが1頭以上撮影された日をカウントし、その出現頻度を調査した。

(2) 修繕した防護柵に対するニホンジカの行動調査

2015年秋季から2016年夏季の間に、西牟婁地域の植栽地に設置された防護柵の破損箇所から獣類が侵入したと思われる痕跡がある地点（5林分5箇所）において、その破損箇所を修繕した後、センサーカメラを35日間設置し、撮影されたシカの行動を調査し、「破壊して侵入」、「破壊した箇所から侵入」、「侵入を試みる」、「柵に触れる」、「立ち止まる」に分類した。

〔結果と考察〕

(1) 防護柵沿いにおけるニホンジカの出現頻度

シカが頻繁に出現する地点や全く出現しない地点が見られたことから、シカは常に防護柵沿いを周回していない可能性がある（図1）。このことから、防護柵沿いでシカを捕獲する場合、事前にその地点におけるシカの出現頻度を調査する必要があると考えられた。

(2) 修繕した防護柵に対するニホンジカの行動調査

全ての調査地点でシカが修繕した防護柵の前で「立ち止まる」という行動が見られた（図2）。3地点でシカが防護柵内への侵入を試みたが、侵入できずに立ち去り、防護柵に損傷を与えるような行動はみられなかった。一方、イノシシが防護柵を執拗に攻撃する行動がみられ、イノシシが防護柵を破壊した箇所から、シカが侵入しているのが確認された（図3、図4）。このことから、大型獣類による防護柵の破壊は、シカよりもイノシシによるものが主である可能性があり、さらなる調査と対策の検討が必要と考えられた。

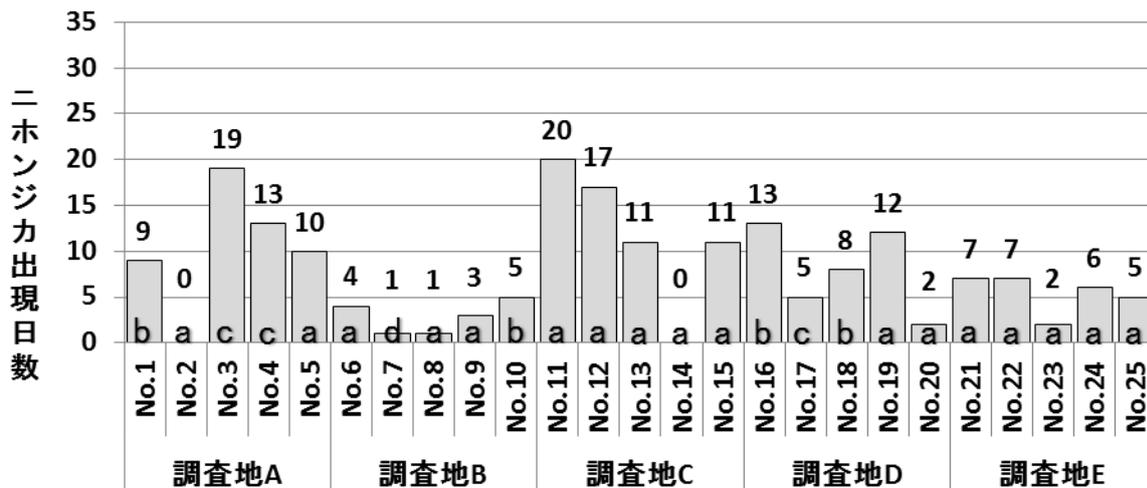


図1 調査期間内（35日間）に防護柵沿いでニホンジカが出現した日数

※a 正常, b アンカー欠損, c 防護柵下部に隙間あり, d ネット部に穴あり

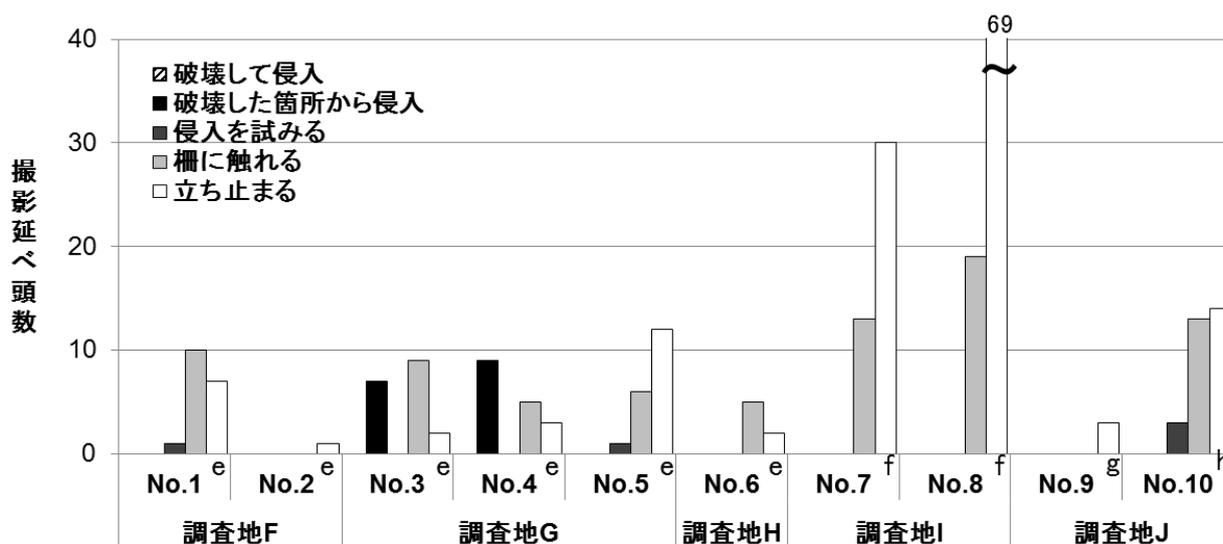


図2 修繕した防護柵の破損箇所に対するニホンジカの行動

※e アンカー欠損, f 防護柵下部に隙間あり, g 全壊, h ネット部に穴あり



図3 防護柵を攻撃するイノシシ



図4 イノシシが破壊した箇所から侵入するニホンジカ